

主任コラム11月号



主任　澤井良子

１０月９日・１０日の２日間、年長児のお泊まり保育がありました。朝、登園してから翌日の対面式まで、子どもたちにとって長く、充実した時間となりました。午前中は、夜のお楽しみに使うライトを取り入れたＳＴＥＭの製作を行い、給食を食べた後は、バスに乗って駄菓子屋さんへ出かけました。持ってきた１１０円のお小遣いで好きなお菓子を買い、その後は県民の森でアスレチックを楽しみ四日市自然の家へと向かいました。

自然の家では、それぞれに決めた役割を担い、布団を敷いたり、夕飯の準備をしたりと、友達と協力しながら取り組む姿がみられました。また、事前に年長児の時間の中で、保育士と一緒にしおりに時計を書き込み、活動の流れを確認していたこともあり、「次は〇〇だよね？」と、自分たちなりに見通しをもって行動する姿も印象的でした。

お泊まり保育を終え、担任の先生と「お泊まり保育という行事を通して、子ども達のどのような力が育ち、どんな成長が見られるのだろう」と振り返っていたら、その中で担任の先生から、保護者の方との会話を通して聞いた子どもたちの姿を教えてもらいました。これまで夜はオムツを履いて寝ていた子が、「お泊まり保育の時はオムツを履かずに寝たいから、練習してみる」と話していたこと。また、「自分で髪の毛を洗う練習をしてみる」「着替えも自分でしてみる」と、家庭でも少しずつ挑戦しようとしていたことです。その話を聞き、子ども達の成長は、お泊まり保育の当日だけのものではなく、そこに向かうまでの過程にもあるのだと改めて感じました。子どもたちは、お泊まり保育を楽しみにする気持ちの中で、自分なりに目標を持ち、「やってみよう」と一歩踏み出していたのだと思います。

また、翌朝の朝食では、事前に自分で選んだパンとジュースを、誰一人間違えることなく、「〇〇パンと、△△のジュースをください」と当番の友達に伝えることができていました。自分で選び、決めたことを覚え、相手に伝える姿にも、子どもたちの主体性が感じられました。

対面式では、賞状と免許証を受け取り、保護者の方からメダルをかけてもらうと、子どもたちの表情は達成感にあふれていました。後日、担任の先生から、年長児が年中児に「お泊まり保育、めっちゃ楽しいよ。来年行けるよ」と話していたことを聞きました。その言葉からも、子ども達にとって心に残る体験になったことが伝わってきました。

今回のお泊まり保育を通して、行事は当日だけで完結するものではなく、そこに向かうまでの過程にも、子どもたちのさまざまな育ちがあることを改めて感じました。自分で考え、やってみようとする気持ちや、友達と協力する体験など、一つひとつの積み重ねが、子ども達の自信へと繋がっているのだと思います。

運動会を終え、生活発表会へと行事もありますが、行事の当日だけに目を向けるにではなく、日々の保育の中で積み重ねてきた経験や、一人ひとりの育ちを大切にしていきたいと思います。行事を通して見られる子どもたちの姿を、これからも保育につなげていきたいと思います。






